平成３０年度新規研究課題

課題番号（10）
課 題 名：放牧牛確保のための誘導・捕獲技術の開発
研究期間：平成30～32年度
研究担当：畜産技術部　放牧環境研究室

１　研究の背景

○ 山口型放牧[1)]は、耕作放棄地の解消や農地の省力的管理のための有効な技術として高いニーズ
○ 放牧牛の飼養管理技術については、山口型移動放牧マニュアル[2)]に基づき対応
○ 畜産農家等の高齢化のため、牛の誘導・捕獲等の作業に係る負担が大きくなり放牧実施が困難
○ 放牧牛の誘導・捕獲は、関係者の経験則で実施されており、誰もができる技術では無い

２　目的

○ 放牧地と牛舎間を円滑に移動できる放牧可能牛を増やすため、慣行技術と組み合わせた簡易な牛の誘導・捕獲技術を開発

３　研究内容

（１）牛の誘導・捕獲のための調教技術を検討
（２）牛の誘導・捕獲のための装置・器具を検討・作製

４　研究のポイント

○ 牛の誘導・捕獲等作業労力の軽減化
○ 誘導・捕獲困難牛の減少による放牧可能頭数の増加
○ 調教技術や簡易装置・器具の活用は、繁殖農家へ即普及可能
○ 放牧可能頭数の増加による山口型放牧活用面積の拡大

脚注　１）山口県では、水田放牧や移動放牧のような農地保全と飼育管理の省力化が図れる放牧に「山口型放牧」というブランド名をつけて、積極的に取り組んでいます。平成28年度には県全体の放牧面積は356haまで拡大しています。
２）山口型放牧の理解と運用について適正に活用するための手引書（平成16年3月、山口県畜産試験場作成）

放牧牛確保のための誘導・捕獲技術の開発(H30～32)

畜産技術部放牧環境研究室

放牧に連れて行きたいが

牛がトラックになかなか乗らない

放牧牛がつかまらない。困った、困った・・・。

写真出典：（社）日本草地畜産種子協会 HP（技術情報）より

放牧しやすい牛を増やす技術が開発できれば・・・

牛が放牧にだせるぞ。管理が簡単になるぞ。やったぞ。